

一般社団法人 日本森林学会

2024 年度第 1 回（通算第 488 回）理事会 議事録

日時：2024 年 4 月 22 日（月）13:00～17:30

場所：日林協会館 5 階中会議室，Web 会議システム（Microsoft Teams）を併用して開催

開催者：丹下 健

出席者：会長）丹下 健，副会長）太田祐子，正木 隆，理事）陣川雅樹，伊藤 哲，佐藤孝吉，長池卓男，溝上展也，石崎涼子，井上真理子，小杉緑子，久保田多余子，泉 桂子，枚田邦宏，大久保達弘，小山泰弘，梶本卓也，深町加津枝，主事）宗岡寛子，山川博美，志水克人，鈴木秀典，森 英樹，杉浦克明，宮本尚子，長谷川陽一，櫃間 岳，園原和夏，編集部）町田庸子〔学会誌刊行センター〕，事務局）稲村崇子，オブザーバー）有山隆史〔林野庁〕，向川克展〔全林試協〕，渋谷正人〔第136回大会運営委員長〕

議長：丹下 健

Web 会議システム（Microsoft Teams）にて，理事会が定款に定める定足数を満たし成立していること，出席者全員が問題なく参加できており適時的確な意見表明が互いにできることを確認し，議案の審議に入った。

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下のとおりである。

1. 2023 年度事業報告（案）

陣川理事（総務担当）から提案され，2024 年定時総会の承認を求めることとなった。

2. 2024 年度事業計画の修正

陣川理事（総務担当）から，2023 年度第 5 回メール理事会で承認済みの 2024 年度事業計画の「(3) 第 137 回日本森林学会大会の準備」について，関東森林学会から正式に開催機関の推薦を受けたことから，開催機関名を追記する修正案が提案され，提案の通り承認された。

3. 次回理事会，2024 年定時総会の招集

陣川理事（総務担当）から，2024 年 5 月 22 日に 2024 年度第 2 回理事会と 2024 年定時総会を招集することが提案され，提案のとおり承認された。

4. 定款の変更について

陣川理事（総務担当）から，法人又は団体の準会員を明確に位置付けるための定款第 6 条の変更と，主事を増員するための定款第 40 条の変更について提案され，2024 年定時総会の承認を求めることとなった。

5. 第 137 回大会（2026 年，筑波大学・森林総合研究所）運営委員長の委嘱

陣川理事（総務担当）から，第 137 回大会運営委員長を上條隆志会員（筑波大学）に委嘱することが提案され，提案の通り承認された。

6. 2023 年度決算の議決

伊藤理事（会計担当）から 2023 年度決算が報告され、理事会としてこれを議決し、2024 年定時総会の承認を求めることとなった。日林誌のオンラインジャーナル化による会誌等刊行費の縮減等により、一般正味財産は約 8 万円の黒字であったこと、134 回大会の会計決算において黒字が発生し、利息を加算した約 144 万円を指定正味財産へ繰り入れたこと等が説明された。

7. 2024 年度予算の修正

伊藤理事（会計担当）から、2023 年度第 5 回メール理事会で承認済みの 2024 年度予算案の修正案が提案され、提案の通り承認された。修正事項は「半期決算」を「期末決算」へ変更することのほか、会員データベースの更新に係る消耗品費の増額、退職給付引当資産取得支出の増額、従来本部事業活動費としていた共催大会共催費や総務シンポジウム開催費を、大会サテライト企画と位置づけて大会事業費とすることなどであり、会員データベース更新経費と退職給付引当資産取得支出に相当する 295 万円を特別積立金引当資産から繰り入れることが説明された。

8. 「3-2 日本森林学会誌執筆要領」の改訂

長池理事（日林誌編集担当）から、引用文献のスタイルについて改定することが提案され、提案の通り承認された。

9. 「日本森林学会誌に掲載された学術論文のデータの公開に関する基本方針」の改定

長池理事（日林誌編集担当）から、2023 年度第 4 回理事会で承認された「J-STAGE Data での論文データ公開について」の改定に伴う改定を行うことが提案され、提案の通り承認された。

10. 「J-STAGE Data での論文データ公開について」の改定

長池理事（日林誌編集担当）から、「J-STAGE Data での論文データ公開について」をよりわかりやすくするために改定することが提案され、提案の通り承認された。

11. JFR における原稿種 Data Note の導入について

溝上理事（JFR 編集担当）から、JFR の新しい原稿種として Data Note を導入することが提案され、提案の通り承認された。

12. 森林科学編集担当主事の交代

石崎理事（森林科学編集担当）から、高橋由紀子会員（森林総合研究所）に森林科学編集担当主事を委嘱することが提案され、提案の通り承認された。

13. 2023 年度林業遺産候補の認定

深町理事（林業遺産選定担当）から、林業遺産選定委員会において「森林総合研究所十日町試験地の観測記録原簿および積雪観測用地下道」を 2023 年度林業遺産候補として選定したことが報告され、理事会としてこれを 2023 年度林業遺産に認定した。

14. 前回までの議事録の承認

2023 年度第 4 回（通算第 487 回）理事会・連携学会長合同会議、2 回のメール理事会（2023 年

度第 4,5 回) の議事録が承認された。

報告事項：

本理事会で報告された事項は以下のとおりである。

1. 第 135 回大会（東京農業大学）の開催報告

佐藤理事（大会担当）から、3 年ぶりとなる対面形式（口頭発表等のオンライン配信やポスターのオンライン閲覧を併用）で大会を開催し、合計約 1800 名の参加者があり、発表件数は口頭 305 件、ポスター 524 件（うち高校生 29 件）であったこと、公開シンポジウム「楽しい林業，元気のえる林業」には 608 名（現地参加 420 名，オンライン 188 名）の参加があり盛況であったこと等が報告された。また、大会参加者アンケートで多く寄せられた意見が紹介された。

大会運営について、本部と大会運営委員会が月に 2 回のオンラインミーティングを行って密に連携してきたが、本部と大会運営委員会の役割分担が曖昧になった面があり、役割分担の整理が必要だという意見が出された。これについて、新潟大会以前のように基本的には大会運営委員会が全般の決定権を持ち、本部はプログラム編成とオンライン対応のサポートを行うべきという意見や、大会運営委員会に過度な負担がかからないよう配慮すべきという意見が出された。

梶本理事（プログラム編成担当）から、第 135 回大会講演要旨集の印刷版が発行されたことと、口頭発表（部門別）、公募セッション、企画シンポジウムの参加者数が報告された。また、様々な事情で発表日を変更してほしいという問い合わせが 50 件程度（前回大会と同程度）あり、できる限り対応したことも報告された。大会講演要旨集について、最終版は大会当日時点版から修正が加わっていること（作業ミスにより大会当日時点で掲載されていなかったものを掲載したことや、当日キャンセルされた発表の要旨を削除したこと）を会員に周知すべきという意見が出された。

丹下会長より、ポスター発表における会員間トラブルについて報告があった。

2. 第 136 回大会（北大大会）でのオンライン併用の検討

正木副会長より、北大大会でのオンライン併用は、男女共同参画学協会連絡会幹事学会を務める立場からも必須であるとの立場から、京都大学で開催された木材学会での方式を参考にした口頭発表の配信と、135 回大会と同様のポスターのオンライン閲覧を併用する案が出された。これに対し、オンライン併用のメリット、コスト、開催機関の設備を踏まえた実現可能性を整理し、オンライン併用の方針決定を今期の役員で行い、次期役員や 136 回大会運営委員会に引き継ぐこととなった。

3. 監事監査の報告

陣川理事（総務担当）から、2024 年 4 月 12 日（金）に実施した監事監査について報告された。

4. 第 137 回大会（北海道大学）の開催準備報告

陣川理事（総務担当）から、第 137 回大会開催日程と開催場所について報告された。

5. 共催、協賛、後援依頼への対応

陣川理事（総務担当）から、5 件の共催・後援・協賛依頼を承認したことが報告された。

6. 日林誌オンラインジャーナル化による赤字削減効果

伊藤理事（会計担当）から、日林誌がオンラインジャーナル化された 2023 年の決算をオンラインジャーナル化以前の 4 年間の平均と比較して、会員区分の変更に伴い会費収入が減少したものの、印刷製本費、発送費の減少により 60 万円程度の収支改善効果があったことが報告された。

7. 日林誌編集担当からの報告

長池理事から、投稿審査状況、J-STAGE Data におけるデータ公開状況、編集委員の交代について報告された。また、日林誌掲載論文の著者に対し、Research Gate 等へは、論文 PDF ファイルを直接アップロードするのではなく、論文 DOI を掲載するよう、学会ホームページで周知することが報告された。

8. JFR 担当からの報告

溝上理事から、Instructions for authors の文言修正（JFR 掲載論文の頁数上限引き上げが適用される投稿日の追記）、2023 年の予想 IF が 1.3～1.4 程度であること、JFR 出版状況、特集企画・Invited Review の掲載予定、2024 年 6 月 1 日から投稿プラットフォームが Editorial Manager から Submission Portal へ移行すること、JFR 論文賞受賞論文の責任著者へ T&F からの賞金が授与されたこと、JFR のオンラインジャーナル化の検討開始について報告された。

9. 森林科学編集担当からの報告

石崎理事から、森林科学編集担当主事、編集委員の委嘱期間は、従来 4 月 1 日から 2 年後の 3 月 31 日までとしてきたが、他の担当と同様に 5 月の総会を区切りとした交代サイクルに変更すること、これに伴い、2024 年 4 月から 5 月の総会までは主事が 1 名の体制になるため、理事が主事を兼務することが報告された。また、編集委員の交代、「森林科学」の発行状況についても報告された。

10. 広報担当からの報告

正木理事から、メールマガジンの発行状況と、135 回大会公開シンポジウムの録画を YouTube で公開したことが報告された。

11. 企画担当からの報告

井上理事から、第 135 回大会において 8 件の学会企画を実施したことが報告された。小山理事（国内研究機関連携担当）から、学会企画に関する記事が「現代林業」に掲載されたことが補足情報として報告された。また、2024 年定時総会と同時開催する企画を募集したが応募がなかったため、定時総会に合わせた企画実施は見送ることとしたことが報告された。

12. 表彰担当からの報告

小杉理事から、第 135 回大会の学生ポスター賞に 221 件の応募があり、22 名に賞を授与したこと、閉会式に組み込む形で学生ポスター賞表彰式を実施したこと、日本学術振興会賞への推薦を募集したが、締切までに推薦がなく、学会から推薦を行わなかったこと、1 年間に予定されている主な学術賞の選考スケジュールが報告された。また、学生ポスター賞については近年応募件数が増加し、発表当日に審査結果を集計することが難しくなっているため、翌日以降に審査結果を

発表するプログラム編成が望ましいとの見解が示された。

13. ダイバーシティ推進担当からの報告

久保田理事から、第 135 回大会においてランチョン・ミーティング「若手雇用問題についての情報交換」を開催し、58 名の参加者があったこと、託児室に延べ 8 名（予約時 12 名）の利用があったこと、男女共同参画学協会連絡会運営委員会に出席したことが報告された。

14. 林業遺産選定担当からの報告

深町理事から、2024 年度林業遺産の選定スケジュールが報告された。

15. 学協会・社会連携担当からの報告

泉理事から、第 135 回大会において実施した学会企画ランチョン・ミーティング「森林科学を学んだらどんな仕事があるのか Part2」と「森林・林業分野職業研究会」について報告された。また、農学会より科研費増額に関する要望書と署名への協力依頼があり、森林学会としても賛同する旨回答することが報告された。

16. 中等教育連携推進担当からの報告

太田理事に代わり園原主事から、第 135 回大会において第 11 回高校生ポスター発表を開催し、発表件数は 29 件（22 校）、当日参加者 99 名（引率 28 名、生徒 71 名）であったこと、最優秀賞 2 件、優秀賞 3 件、特別賞 3 件に加え、農大学長賞 2 件を選考したこと、学会企画として「農大キャンパスツアー」を実施し、8 校 38 名が参加したことが報告された。また、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成によりポスター集の印刷と参加校への旅費補助を行い、大日本山林会からの支援金により受賞校へ記念盾、参加校へ参加記念品を贈呈したことが報告された。

17. JABEE 担当からの報告

枚田理事から、第 135 回大会において公開シンポジウムを JAFEE の CPD 企画として提供し、10 名の参加（事前申込 12 名）があったこと、連携学会に対して各連携学会で CPD 活動提供の意向調査を実施し、各連携学会において CPD 企画として提供できる公開企画等を実施しており、条件が整えば提供可能であるという回答が得られたことが報告された。

18. 国際交流担当からの報告

大久保理事から、第 135 回大会において学会企画「帰国留学生会員およびアジアの林学会とのネットワークフォーラム」を開催し、10 件のポスター発表があったこと、オンライン併用交流会に 12 名（対面 10 名、オンライン 2 名）の参加があったことが報告された。

また、今後の国際交流のあり方について、国際交流臨時委員会を設けて検討を進める準備をしていることが報告された。国際交流臨時委員会の設置については、委員会で検討する事項を整理したうえで、次期国際交流担当理事から理事会に提案すべきとの意見が出された。

議事録作成者：陣川雅樹、宗岡寛子